



官許 錦畫百事新聞 第七十七号 明治九年八月廿二日 火曜日

ナリンゴワラングワンと安邊  
野新墓の戻り足土産のあんシ  
ヤ死人のドッコイ新聞の語大  
阪今宮村三十両といふ料理亭  
で七月の末日本橋筋遊の干物  
屋某さんの立派な葬式の仕揚  
サア遠路五苦勞さんふちらへ  
お通りズツと座鋪へドヤ〜  
カワ〜モシ遠慮〜ていけ  
ません颯々どやめて下といと  
高盛飯二汁五菜のお〜料理  
理マアあんを献立の取捨捨て  
上と下への大混雑モスツと沙  
の引たる如くお大坂さ〜て歸  
ま〜さ〜が〜ト此家の仲店が座

敷の跡仕舞ふ行ますとハテ怪  
〜や上段床の間お四年ばかり  
の幼児が赤いべ、を着てニコ  
〜と笑ふからヤアと吃驚魂  
消て家内と呼集めマどう〜  
事かど譯と問ふふも相手が相  
手で仕方が無いのら今日の當  
家日本橋筋の某方へ連行道で  
大事の〜子供が知れぬと該  
家より人力車で迎お来るに行  
合ひ早速お渡し申井とづ腕と  
お内へ参つ〜上と同伴〜く正  
〜請取候也と証書と引換お確  
〜お渡し申ま〜とそりあなん  
どマア世お我子と忘る程の不

孝を親がどこお有ふり  
○本月九日夜間屋町邊とクワ  
ツ〜と廻らる、後からチイ  
巡査の馬鹿五一新の政治よナ  
〜人の妨とるツ放歌と〜其  
証據いどこよあるウヌ此棒で  
グサ殺とと三尺斗の棒と振て  
懸る連の奴の犬の逃吼おヤア  
巡査の馬鹿と打殺せと説諭モ  
聞て種々罵詈雑言組で懸る所へ  
外巡氏も来り拘引と成〜の上  
福島村高橋熊吉といふ大たわ  
け野郎のさま見ろイ

本局 大阪心齋橋塩町角  
社長兼編輯代理 百事社  
印務 金井徳兵衛 前田喜兵衛

錦画百事新聞177号 文庫10-8310-4

